

阿波学会と総合学術調査に関する協定を締結

4月26日(水)、阿波学会(平井松午会長)と、佐那河内村を対象とした総合学術調査について協定を締結しました。本村における総合学術調査は平成13年度に実施以来、2回目となり、令和5年度と6年度の2年間、佐那河内村全域においてさまざまな班による調査が実施されます。

今回の学術調査について、平井会長より「村の資産や資源の見直しにつながり、今後の村づくりに寄与できれば嬉しい」との話がありました。

調査結果については報告会および「阿波学会紀要」の刊行にて、住民のみなさまに報告します。



協定締結の様子(右側阿波学会・平井会長)

令和5・6年度に 阿波学会が村内で総合学術調査を実施します

令和5・6年度の2年間、阿波学会の総合学術調査が佐那河内村内で実施されます。阿波学会は70年の歴史を持ち、自然科学・人文科学の多彩な学術団体が加盟する学会で、徳島県立図書館に事務局が置かれています。毎年、県内の各市町村を対象に順次学術調査を実施し、調査報告書である『阿波学会紀要』の刊行や調査成果報告会を開催してその成果を地元に戻してきました。

今年は夏場を中心に、地質班、植物相班、鳥類班、クモ類・貝類班、民家班、社寺建築班、考古班、埋蔵文化財班、地方史班、民俗班、方言班、地理班、災害・防災班の各班が調査に参加します。調査内容によっては通年で活動する班もありますが、調査者は名札を付けて活動いたしますので、ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。



写真出典:「発見! 徳島の自然と文化」(阿波学会)より